



# 茨城県景気ウォッチャー調査

(平成19年3月調査分)

## 景気の現状判断DI

	平成18年12月	平成19年3月	前回調査比
茨城県	51.7	<b>51.3</b>	0.4
県北地域	52.2	51.4	0.8
県央地域	50.4	52.3	+1.9
鹿行地域	53.6	49.1	4.5
県南地域	51.3	50.9	0.4
県西地域	50.9	53.1	+2.2

## 景気の先行き判断DI

	平成18年12月	平成19年3月	前回調査比
茨城県	48.3	<b>53.0</b>	+4.7
県北地域	48.2	52.3	+4.1
県央地域	50.9	50.0	0.9
鹿行地域	47.8	51.8	+4.0
県南地域	47.5	55.6	+8.1
県西地域	47.3	54.8	+7.5

平成19年3月

茨城県企画部統計課

問い合わせ先

統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/index.htm>

## 目 次

調査の概要	1
調査結果の概要	3
1 全県の動向	3
（1）景気の現状判断D I	3
（2）景気の先行き判断D I	4
2 地域別の動向	5
（1）景気の現状判断D I	5
（2）景気の先行き判断D I	7
3 回答率	10
景気の判断理由	11
1 景気の現状判断理由	11
2 景気の先行き判断理由	21
3 その他の意見	31

# 調査の概要

## 1 調査の目的

経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料とする。

## 2 調査の範囲

### (1) 対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。

平成19年2月28日現在

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、那珂郡、久慈郡
県央地域	水戸市、笠間市、小美玉市、東茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

### (2) 調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別・業種別調査客体数】

業種名	具	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等		38	39	38	37	36	188
企業関連	製造業(食料品、一般機械器具等)、建設業、金融業		17	16	17	18	19	87
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等		5	5	5	5	5	25
	計		60	60	60	60	60	300

## 3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
- (2) (1)の理由
- (3) 景気の先行きに対する判断(方向性)
- (4) (3)の理由
- (5) その他景気に関する意見(自由回答)

## 4 調査月及び調査期間

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回である。平成19年3月調査の調査期間は平成19年3月1日から3月30日である。

## 5 利用上の注意

- (1) 景気動向指数(DI)は景気の方角性を判断するものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

### 景気動向指数(DI)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、景気動向指数(DI)を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

### 2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1 \times 15.0) + (0.75 \times 27.0) + (0.5 \times 25.0) + (0.25 \times 11.0) + (0 \times 22.0) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \times 100) = 50$  となることから、50を上回っているときは、景気の上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

# 調査結果の概要

## 1 全県の動向

### (1) 景気の現状判断DI

3か月前と比較した景気の現状判断DIは51.3となった。「良くなっている」の回答構成比が減少し、「悪くなっている」の回答構成比が増加したため、12月調査分より0.4ポイント低下したものの、横這いを表す50を6期連続で上回った。業種別にみると、雇用関連DIは12月調査分を上回ったものの、家計動向関連DIは横這い、企業動向関連DIは12月調査分を下回った。

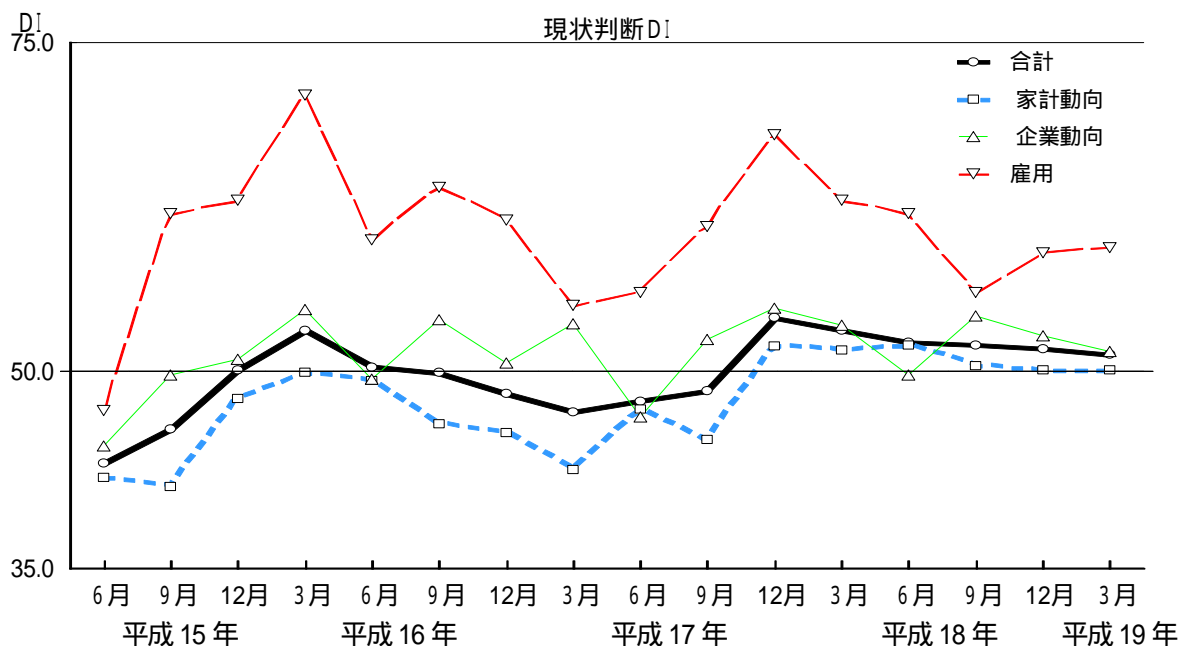
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年 3月	平成18年 6月	平成18年 9月	平成18年 12月	平成19年 3月
合計		53.1	52.2	52.0	51.7	51.3
家計動向関連		51.6	52.0	50.4	50.1	50.1
小売関連		53.3	52.4	53.2	47.1	49.2
飲食関連		61.3	53.6	46.3	56.9	55.0
サービス関連		46.3	50.6	48.7	51.9	49.0
住宅関連		63.9	58.3	52.8	44.4	55.6
企業動向関連		53.5	49.7	54.2	52.7	51.5
農林水産業		43.8	43.8	46.9	53.1	46.9
製造業		51.0	49.0	52.3	52.8	49.4
非製造業		60.0	52.6	58.6	52.5	55.6
雇用関連		63.0	62.0	56.0	59.0	59.4

表1-2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成18年 3月	2.8%	29.5%	48.6%	15.6%	3.5%
平成18年 6月	3.1%	22.7%	56.9%	14.6%	2.7%
平成18年 9月	2.8%	28.1%	47.0%	18.6%	3.5%
平成18年 12月	3.2%	26.5%	48.4%	17.7%	4.2%
平成19年 3月	1.4%	27.3%	51.1%	15.5%	4.7%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



## (2) 景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは53.0となった。「悪くなっている」「やや悪くなっている」の回答構成比が減少し、「やや良くなっている」の回答構成比が増加したため、12月調査分より4.7ポイント上昇し、横這いを表す50を2期ぶりに上回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが12月調査分を上回った。

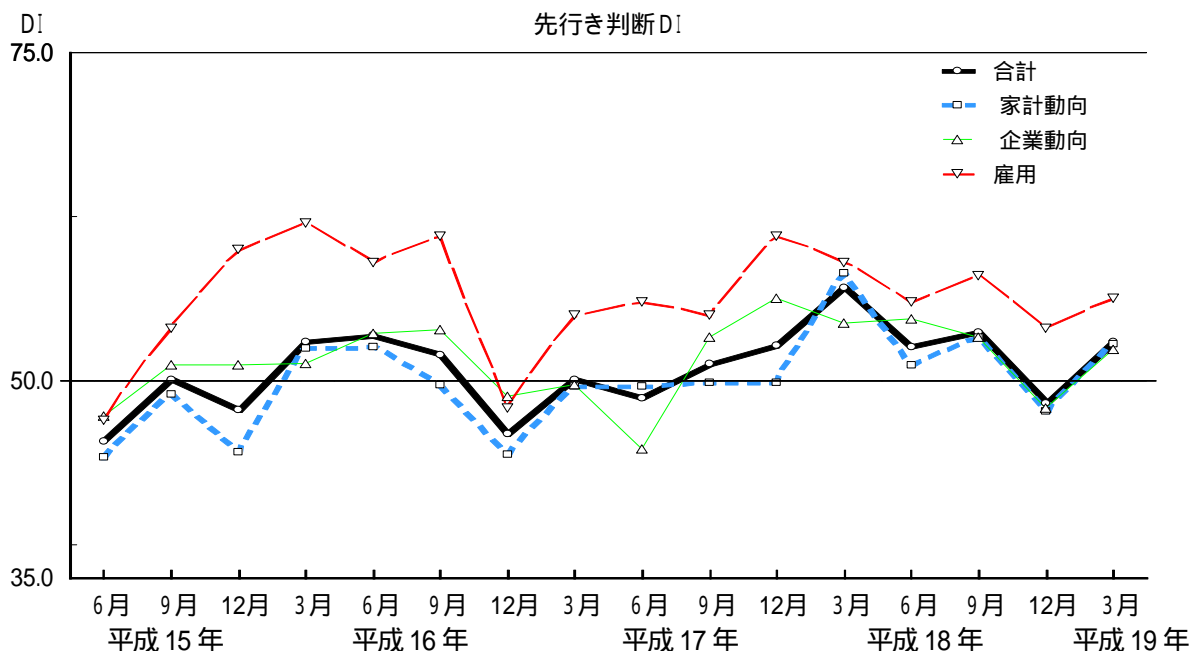
表1-3 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成18年 3月	平成18年 6月	平成18年 9月	平成18年 12月	平成19年 3月
合計		57.1	52.6	53.7	48.3	53.0
家計動向関連		58.2	51.2	53.3	47.7	52.8
小売関連		58.8	52.1	51.4	48.2	53.1
飲食関連		68.8	50.0	63.8	47.2	52.5
サービス関連		54.7	49.7	52.3	47.8	52.6
住宅関連		61.1	61.1	52.8	44.4	52.8
企業動向関連		54.4	54.7	53.3	47.9	52.4
農林水産業		53.1	53.1	59.4	53.1	53.1
製造業		52.1	53.6	54.0	46.6	52.8
非製造業		58.3	56.9	50.8	48.3	51.6
雇用関連		59.0	56.0	58.0	54.0	56.3

表1-4 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成18年 3月	4.2%	34.0%	50.0%	9.7%	2.1%
平成18年 6月	1.7%	26.1%	55.3%	14.9%	2.0%
平成18年 9月	3.9%	26.7%	51.6%	16.1%	1.8%
平成18年 12月	1.8%	14.8%	60.8%	20.1%	2.5%
平成19年 3月	1.1%	27.0%	56.8%	12.9%	2.2%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移



## 2 地域別の動向

### (1) 景気の現状判断DI

#### 県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは51.4となった。12月調査分より0.8ポイント低下したものの、横這いを表す50を2期連続で上回った。業種別にみると、家計動向関連DIは12月調査分を上回ったものの、雇用関連DIは横這い、企業動向関連DIは12月調査分を下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成18年	平成18年	平成19年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		46.6	49.2	49.1	52.2	51.4
	家計動向関連	43.8	47.4	45.0	47.8	50.8
	企業動向関連	48.5	51.5	57.4	58.8	50.0
	雇用関連	60.0	55.0	50.0	60.0	60.0

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 3月	0.0%	24.1%	43.1%	27.6%	5.2%
平成18年 6月	0.0%	21.7%	58.3%	15.0%	5.0%
平成18年 9月	5.3%	21.1%	43.9%	24.6%	5.3%
平成18年 12月	0.0%	33.9%	46.4%	14.3%	5.4%
平成19年 3月	0.0%	27.8%	55.6%	11.1%	5.6%

#### 県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは52.3となった。12月調査分より1.9ポイント上昇し、横這いを表す50を6期連続で上回った。業種別にみると、家計動向関連DIは12月調査分を上回ったものの、雇用関連DIは横這い、企業動向関連DIは12月調査分を下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成18年	平成18年	平成19年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		54.5	52.2	56.0	50.4	52.3
	家計動向関連	52.2	51.4	56.8	50.7	54.3
	企業動向関連	57.8	48.3	54.7	46.4	44.6
	雇用関連	60.0	70.0	55.0	60.0	60.0

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 3月	3.6%	29.1%	52.7%	10.9%	3.6%
平成18年 6月	5.3%	19.3%	57.9%	14.0%	3.5%
平成18年 9月	5.2%	29.3%	53.4%	8.6%	3.4%
平成18年 12月	3.6%	17.9%	60.7%	12.5%	5.4%
平成19年 3月	0.0%	29.6%	55.6%	9.3%	5.6%

鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは49.1となった。12月調査分より4.5ポイント低下し、横這いを表す50を6期ぶりに下回った。また、現状判断DIは全県を通じて最低であった。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが12月調査分を下回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成18年	平成18年	平成19年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		51.3	55.9	53.1	53.6	49.1
	家計動向関連	50.7	56.6	49.3	50.0	45.6
	企業動向関連	51.6	51.6	60.9	58.8	54.7
	雇用関連	55.0	65.0	55.0	60.0	55.0

表2-6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 3月	0.0%	28.8%	50.8%	16.9%	3.4%
平成18年 6月	3.4%	30.5%	54.2%	10.2%	1.7%
平成18年 9月	1.8%	29.8%	49.1%	17.5%	1.8%
平成18年 12月	1.8%	33.9%	44.6%	16.1%	3.6%
平成19年 3月	1.8%	18.2%	58.2%	18.2%	3.6%

県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは50.9となった。12月調査分より0.4ポイント低下したものの、横這いを表す50を7期連続で上回った。業種別にみると、企業動向関連DI及び雇用関連DIは横這いであったものの、家計動向関連DIは12月調査分を下回った。

表2-7 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成18年	平成18年	平成19年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		57.6	52.1	52.6	51.3	50.9
	家計動向関連	59.0	52.8	54.4	50.7	50.0
	企業動向関連	48.6	45.8	48.6	50.0	50.0
	雇用関連	80.0	70.0	55.0	60.0	60.0

表2-8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 3月	8.5%	33.9%	40.7%	13.6%	3.4%
平成18年 6月	3.4%	23.7%	54.2%	15.3%	3.4%
平成18年 9月	1.8%	35.1%	40.4%	17.5%	5.3%
平成18年 12月	6.8%	23.7%	42.4%	22.0%	5.1%
平成19年 3月	3.4%	31.0%	39.7%	17.2%	8.6%

県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは53.1となった。12月調査分より2.2ポイント上昇し、横這いを表す50を2期連続で上回った。また、現状判断DIは全県を通じて最高であった。業種別にみると、企業動向関連DI及び雇用関連DIは12月調査分を上回ったものの、家計動向関連DIは12月調査分を下回った。



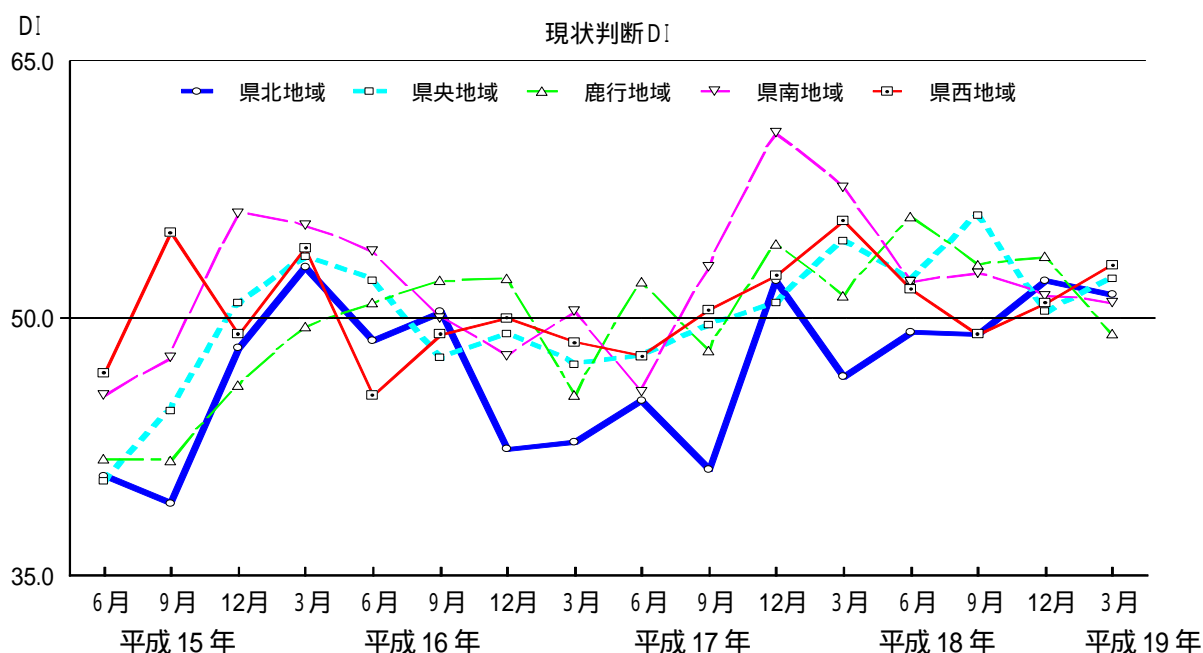
表2 - 9 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成18年	平成18年	平成19年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		55.7	51.7	49.1	50.9	53.1
家計動向関連		52.3	52.1	46.3	51.4	50.0
企業動向関連		60.5	51.3	50.0	48.4	56.9
雇用関連		60.0	50.0	65.0	55.0	62.5

表2 - 10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 3月	1.8%	31.6%	56.1%	8.8%	1.8%
平成18年 6月	3.3%	18.3%	60.0%	18.3%	0.0%
平成18年 9月	0.0%	25.0%	48.2%	25.0%	1.8%
平成18年 12月	3.6%	23.2%	48.2%	23.2%	1.8%
平成19年 3月	1.8%	29.8%	47.4%	21.1%	0.0%

図2 - 1 地域別現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

県北地域

3か月先の景気の先行き判断DIは52.3となった。12月調査分より4.1ポイント上昇し、横這いを表す50を2期ぶりに上回った。業種別にみると、家計動向関連DI及び雇用関連DIは12月調査分を上回ったものの、企業動向関連DIは12月調査分を下回った。

表2 - 11 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成18年	平成18年	平成18年	平成18年	平成19年
		3月	6月	9月	12月	3月
合計		51.7	53.8	54.4	48.2	52.3
家計動向関連		51.4	52.0	51.4	44.9	53.1
企業動向関連		54.4	60.3	60.3	54.4	48.5
雇用関連		45.0	45.0	55.0	50.0	60.0

表2 - 12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 3月	0.0%	34.5%	43.1%	17.2%	5.2%
平成18年 6月	1.7%	28.3%	55.0%	13.3%	1.7%
平成18年 9月	5.3%	24.6%	54.4%	14.0%	1.8%
平成18年12月	0.0%	14.3%	66.1%	17.9%	1.8%
平成19年 3月	0.0%	25.9%	59.3%	13.0%	1.9%

### 県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは50.0となった。12月調査分より0.9ポイント低下し、横這いを表す50を8期連続で上回った後、横這いとなった。また、先行き判断DIは全县を通じて最低であった。業種別にみると、企業動向関連DIは12月調査分を上回ったものの、家計動向関連DI及び雇用関連DIは12月調査分を下回った。

表2 - 13 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成18年 3月	平成18年 6月	平成18年 9月	平成18年 12月	平成19年 3月
	合計		55.9	51.8	53.0	50.9
家計動向関連		56.6	50.0	53.4	50.7	48.6
企業動向関連		51.6	50.0	46.9	46.4	50.0
雇用関連		65.0	70.0	70.0	65.0	60.0

表2 - 14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 3月	5.5%	27.3%	54.5%	10.9%	1.8%
平成18年 6月	3.5%	15.8%	68.4%	8.8%	3.5%
平成18年 9月	3.4%	25.9%	51.7%	17.2%	1.7%
平成18年12月	5.4%	10.7%	66.1%	17.9%	0.0%
平成19年 3月	0.0%	22.2%	57.4%	18.5%	1.9%

### 鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは51.8となった。12月調査分より4.0ポイント上昇し、横這いを表す50を3期ぶりに上回った。業種別にみると、家計動向関連DI及び雇用関連DIは12月調査分を上回ったものの、企業動向関連DIは12月調査分を下回った。

表2 - 15 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成18年 3月	平成18年 6月	平成18年 9月	平成18年 12月	平成19年 3月
	合計		59.3	53.0	49.6	47.8
家計動向関連		59.9	50.7	48.6	44.1	51.5
企業動向関連		57.8	56.3	51.6	54.4	50.0
雇用関連		60.0	60.0	50.0	50.0	60.0

表2 - 16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 3月	3.4%	39.0%	50.8%	5.1%	1.7%
平成18年 6月	0.0%	30.5%	52.5%	15.3%	1.7%
平成18年 9月	0.0%	19.3%	61.4%	17.5%	1.8%
平成18年12月	1.8%	16.1%	57.1%	21.4%	3.6%
平成19年 3月	1.8%	25.5%	54.5%	14.5%	3.6%

県南地域

3か月先の景気の先行き判断DIは55.6となった。12月調査分より8.1ポイント上昇し、横這いを表す50を2期ぶりに上回った。また、先行き判断DIは全県を通じて最高であった。業種別にみると、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは12月調査分を上回ったものの、雇用関連DIは横這いであった。

表2 - 17 景気の先行き判断DI

分野	調査日時				
	平成18年 3月	平成18年 6月	平成18年 9月	平成18年 12月	平成19年 3月
合計	64.0	56.8	60.1	47.5	55.6
家計動向関連	66.7	56.3	62.5	49.3	55.7
企業動向関連	56.9	58.3	56.9	43.1	56.9
雇用関連	70.0	55.0	55.0	50.0	50.0

表2 - 18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 3月	10.2%	42.4%	42.4%	3.4%	1.7%
平成18年 6月	1.7%	39.0%	47.5%	8.5%	3.4%
平成18年 9月	7.0%	40.4%	40.4%	10.5%	1.8%
平成18年12月	0.0%	20.3%	54.2%	20.3%	5.1%
平成19年 3月	3.4%	24.1%	65.5%	5.2%	1.7%

県西地域

3か月先の景気の先行き判断DIは54.8となった。12月調査分より7.5ポイント上昇し、横這いを表す50を2期ぶりに上回った。業種別にみると、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは12月調査分を上回ったものの、雇用関連DIは12月調査分を下回った。

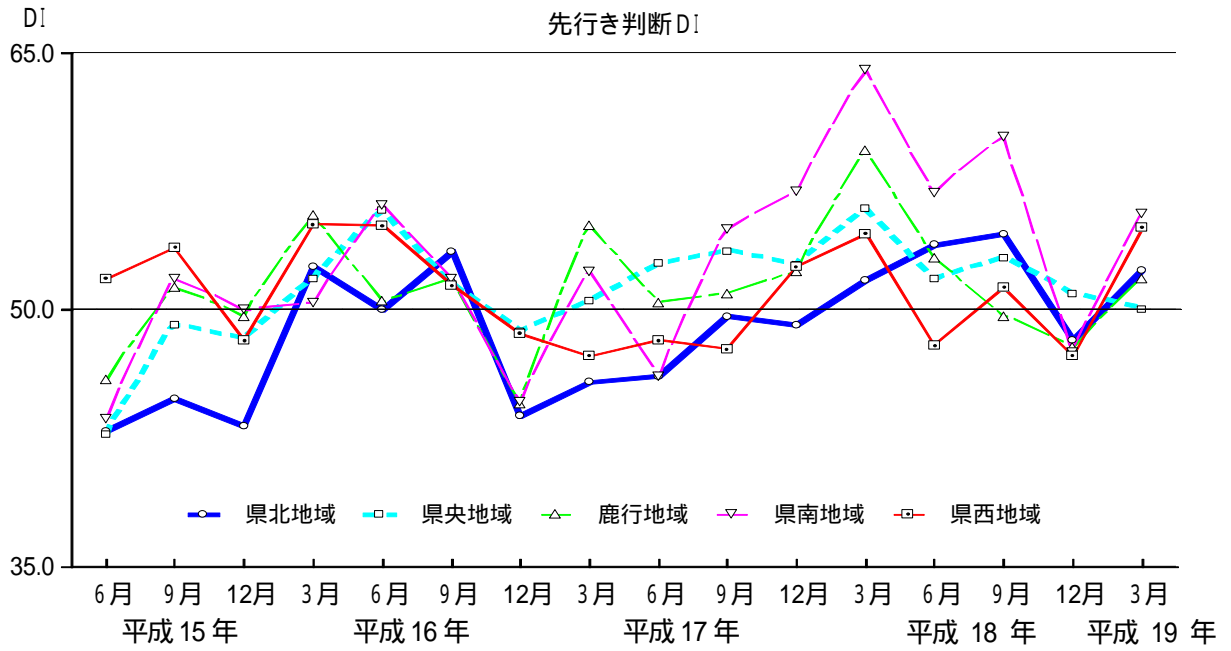
表2 - 19 景気の先行き判断DI

分野	調査日時				
	平成18年 3月	平成18年 6月	平成18年 9月	平成18年 12月	平成19年 3月
合計	54.4	47.9	51.3	47.3	54.8
家計動向関連	56.1	47.2	50.7	49.3	55.0
企業動向関連	51.3	48.7	50.0	40.6	55.6
雇用関連	55.0	50.0	60.0	55.0	50.0

表2 - 20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成18年 3月	1.8%	26.3%	59.6%	12.3%	0.0%
平成18年 6月	1.7%	16.7%	53.3%	28.3%	0.0%
平成18年 9月	3.6%	23.2%	50.0%	21.4%	1.8%
平成18年12月	1.8%	12.5%	60.7%	23.2%	1.8%
平成19年 3月	0.0%	36.8%	47.4%	14.0%	1.8%

図2 - 2 地域別先行き判断DIの推移



### 3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	278 人	92.7%
県北地域	60 人	54 人	90.0%
県央地域	60 人	54 人	90.0%
鹿行地域	60 人	55 人	91.7%
県南地域	60 人	58 人	96.7%
県西地域	60 人	57 人	95.0%

景気の判断理由

1 景気の現状判断理由

(1) 県北地域 【現状】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答	分野	業種・職種	理 由
良			
やや良くなっている	家計	スーパー	昨年と比べ、高額品の動きが良くなってきている。また、1人当たりの贈答品の買上点数も増加している。
		スーパー	売上げが前年を上回るようになってきている。
		家電販売店	1月以降、売上げが前年を上回っている。
		レストラン	暖冬により人の動きが良くなっている。
		居酒屋	サラリーマン客や接待での利用が増加している。また、客単価も伸びている。
		和食食堂	新規の客が増加しており、特に、若者客が目につくようになった。
		タクシー運転手	このところ、地元大手企業の長距離移動による利用が多い。
		ドライブイン	暖冬で天候にも恵まれたため、花見や温泉へと出掛ける客が多く、消費意欲もやや高かったようである。
	ゴルフ場	料金の問い合わせや予約時の料金交渉が減少している。また、暖冬のためか、動きが良くなって来ており、予約状況も前年を上回っている。	
	企業	製造業（食料品）	売上げがやや増加しており、燃料価格にも落ち着きが見られる。
		製造業（電気機械器具）	受注が増加している。
		製造業（電気機械器具）	景気上昇に伴う各メーカーの設備投資により、当社製品の需要が拡大している。
		不動産業	全体的には良くなっていると思われる。但し、利便性等の条件により、順調に推移しているエリアと動きがないエリアとで二極化している。
	雇用	公共職業安定所	新規求人数は平成18年8月以降、増加傾向で推移しており、新規求職者数は引き続き減少している。また、零細企業において、技能者などの正社員求人が出てきているが、依然として派遣やパートの求人が増加しており、「良くなっている」とまでは判断し難い。
学校就業関係者		例年と比べ、企業からの求人の問い合わせがやや多い。一方、求職者は減少しているように感じられる。	
変わらな	家計	商店街代表者	中心商店街への来街者は減少したままであり、回復の兆しが無い。
		コンビニエンスストア	以前ほどの景気の悪さは感じられず、上昇傾向にあると思われるが、従業員の募集においては、収入減による応募が増加しており、所得格差が拡大しているように感じられる。
		衣料品販売店	売上げの減少が続いている。
		衣料品販売店	客単価・客数に伸びがない。また、暖冬にもかかわらず、春夏物の販売が伸びていない。
		自動車販売店	自動車市場全体で前年割れが続いている。
		ガソリンスタンド	相変わらず、低マージンであり、悪い状況に変化がない。元売小会社などは仕入値以下の販売をしている状況である。
		観光型ホテル	前年と比べ、来客数に変化がない。
		観光型ホテル	宿泊予約、客の消費単価ともに変化が見られない。
		タクシー運転手	年度末に期待していたが、思うようではなかった。
		タクシー運転手	昼間の乗車回数が少なく、夜間に集中している状況であり、売上げが増加していない。
		ゲームセンター	客の施設の選別が厳しくなっており、当地域の動向はあまり良くなってはいない。
		レジャー施設	暖冬により入場者は増加してはいるものの、滞在時間及び客単価は伸びていない。
レジャー施設	暖冬により客数は増加しているものの、消費単価は減少しているため、売上げに変化が見られない。		

(1) 県北地域 【現状】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	美容室	製造業は好況のようであるが、当店では固定客のみで変化がない。
		住宅販売会社	来場者数に変化がない。
	企業	林業関係者	林産物の価格は横ばいか減少傾向にある。
		製造業（電気機械器具）	受注が増加する案件がない。
		製造業（電気機械器具）	受注量は若干増加傾向にあるものの、ステンレス材料の高騰が続いているため、景気にブレーキが掛かっている。材料費の高騰が加工賃に影響しており、全体的な景気には変化がないと思われる。
		製造業（電気機械器具）	前期と比べ、受注がやや増加傾向にあるものの、期末調整によるものである。
		製造業（電気機械器具）	周辺の業界にも、特に良くなるような要因が見られない。
		製造業（電気機械器具）	引き続き好調を維持している。
		製造業（輸送用機械器具）	今まで高止まりであった銅・アルミ等の市況価格は軟化傾向にあるものの、原油・ニッケル等は依然高止まりの状況である。また、国内及び北米への販売不振に伴い作業量の減少傾向が続いている。さらに、環境対応の要望が強いため、ISO14000（環境に対する国際規格）の認証取得や低クロム使用の表面処理への切替えが進んでいるが、費用の価格転嫁が厳しい状況にある。
		建設業	年度末により、公共事業・民間工事とも動きがあるものの、景気が好転するまでには至っていない。
情報通信業（情報サービス業）	業績好調な企業があるため、商談が発生しているものの、受注増には結び付いていない。また、相変わらず単価が低く、収益が改善していない。		
雇用	人材派遣業	依然として好調である。	
	求人広告	現状では良い話題がない。	
	求人開拓員	求人が増加していることから判断すると、景気が回復しているようにも思われるが、直接そのような声は聞こえてこない。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	土日の消費が弱い。大型ショッピングセンターなどの来客は増加しているものの、単独店舗の来客は減少している。特に、衣料は厳しいように感じられる。
		コンビニエンスストア	既存店においては、売上げ・客数・客単価ともに前年を下回っている。
		小売業（酒類）	今年に入り、店頭、顧客飲食店ともに販売数量が減少しており、特に、日本酒の減少が目立つ。また、焼酎ブームも峠を越した感がある。
		観光型ホテル	宴会等の利用が減少すると思われる。
	企業	建設業	例年と比較しても、受注状況が良くない。
金融業	地元大手企業の業況に左右されており、下請けの中小企業は契約額のダウン、利益率の縮小など厳しい状況のようである。また、サービス関連業も同様であり、特に飲食業の売上げは大きくダウンしている。		
悪くなっている	家計	農産物直売所	観光客の激減により、開店以来最低の売上げとなっている。
		クリーニング店	客数・客単価ともに減少している。
	企業	水産業関係者	小型船においては、強い暖流の影響でオキアミやコウナゴが極端な不漁となっている。また、主力のまき網船は常盤沖では漁場が出現せず、銚子沖方面での中程度の漁獲量が続けている。総体的には、著しく景気が後退している。

(2) 県央地域 【現状】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答	分野	業種・職種	理 由
良			
やや良くなっている	家計	百貨店, 総合スーパー	暖冬により, 春物衣料が好調に推移している。
		農産物直売所	客単価の上昇により, 売上げが前年比20%伸びている。
		専門スーパー	暖冬で作業をするのに良い条件であったため, 建築関連・農業資材関連の動きが活発である。
		レストラン	前年の売上げをクリアしている。
		ファミリーレストラン	来店客数が増加している。
		観光型ホテル	直近の予約が活発である。
		タクシー運転手	観梅シーズンのため, タクシーの利用が増加している。
		ドライブイン	梅まつりのおかげで多忙である。また, 暖冬のためか, 夜間のレストラン客がやや増加している。
		ドライブイン	暖冬により, 観梅が早かったためか, 客数及び売上げが前年を上回っている。
		観光名所	時期的に人が動き始める季節であるが, 好天にも恵まれ順調に推移している。
		レジャー施設	昨年と比べ, 新規利用者がやや増加している。
		建築設計事務所	工場の増築・改修工事など, 企業の設備投資が増加している。
	企業	製造業(一般機械器具)	昨年より仕事量が増加している。特に, 建設機械や自動車関連が良い。
不動産業		企業の人事異動等により, 賃貸物件の動きが良い。	
雇用		人材派遣業 年度末ということもあり, 受注件数が伸びている。また, 取引先においても, 以前のような鬱結感はないように感じられる。 公共職業安定所 2月末現在, 有効求人倍率は6ヶ月連続1.0倍を超えている。有効求職者数は11ヶ月ぶりにやや増加したものの, 雇用保険受給者実人員は12ヶ月連続で減少しており, 雇用情勢は緩やかに回復している。また, 管内事業所業況調査における業況DIも2.7ポイント改善している。	
変わらない	家計	商店街代表者	これといって変化は感じられない。
		商店街代表者	景気は冷え切った状態が続いている。
		百貨店, 総合スーパー	季節的な要因を除けば, 来店客数・単価に大きな変化は見られない。
		スーパー	客の堅実な消費動向に変化は見られない。
		自動車販売店	相変わらず市場は厳しい状況であり, 前年実績を上回ることが難しい。
		専門スーパー	特に変わった様子がない。
		レストラン	暖冬により, 今年は観梅客が増加しているが, 景気が良くなったためとは思わない。
		都市型ホテル	宿泊に関しても特に変化は見られない。
		都市型ホテル	歓送迎会シーズンに入るが, 予約状況は例年並みである。また, 客との会話の中でも, 悪くなっているとの声も聞かれないが, 良くなっているとの声もあまり聞かれない。
		旅行代理店	水戸地区においては, 世間で言われているような景気の拡大は実感できない。
		タクシー運転手	12月は忘年会シーズンで多忙であったが, 今月中旬以降は歓送迎会により忙しくなってくると思われる。
		タクシー運転手	一向に変化が見られない。

(2) 県央地域 【現状】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理由	由
変 わ ら な い	家計	ゴルフ場	依然として申込みに伸びが見られない。平日でも25,000円とプレー料金が高額であることが要因と思われる。	
		パチンコ店	土日・祝日の集客は増加しているものの、平日の集客は減少しており、厳しい状況に変わりはない。	
		レジャー施設	暖冬ということもあり、例年と比べ入場者数は増加しているが、3か月前より良くなっている様な感じはしない。しかし、冬季においては、異例とも思える入場者数であり、周辺施設の充実と好天候が功を奏していると思われる。	
		美容室	売上げにあまり変化がない。	
		住宅販売会社	来場者数に変化が見られない。	
	企業	製造業(食料品)	暖冬により観梅客が多く、2月は好調であったが、3月の集客は前年割れしている。	
		製造業(印刷・同関連業)	特段、変化は見られない。	
		製造業(金属製品)	顧客からは、特段悲観的な声も聞かれない。	
		運輸業(道路貨物運送業)	年度末であるが、貨物の動きは落ち着いている。	
		情報通信業(情報サービス業)	業種により、景況感の格差が拡大している。比較的景気がよいと言われる製造業においても、景気の捉え方に差があり、設備投資に慎重な姿勢が見られる。また、個人消費には改善が見られず、小売業など内需中心の業種は厳しいとの声が多い。	
金融業		大部分の業種で、売上げが横這い状態であり、特別な資金需要も見当たらない。		
雇用	求人広告	個人消費が依然として低迷している。		
	学校就業関係者	学生の就職状況は、特に悪化も好転もしていない。		
	求人開拓員	求人・求職者とも増加傾向にあるが、退職者の補充といった時期的なものであり、さほど景気の変化は感じられない。		
やや悪くなっている	家計	スーパー	競合店の出店の影響で、いまいち売上げが伸びない。	
		家電販売店	暖冬の影響で、季節商品の売行きが鈍かった。	
	企業	製造業(食料品)	昔からよく知っている企業が倒産するなど、報道されている程、景気が良いとは思われない。	
		製造業(精密機械器具)	自社製品は良かったが、自社製品の修理部品や消耗品の受注が良くなかった。また、相手先商標ブランド(OEM製品)の受注も良くなかった。	
サービス業(広告業)	クライアントベースで新年度の販促予算が約10%減少しており、地方都市の景気には全く改善の兆しがない。			
悪くなっている	家計	割烹料理店	時間にゆとりがないためか、すぐに食べることができるコンビニ弁当などに押されている状況である。	
		タクシー運転手	年末の繁忙期と比べ、かなり悪化している。	
	企業	製造業(窯業・土石製品)	受注の減少及び仕入高により悪化している。	



(3) 鹿行地域 【現状】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答	分野	業種・職種	理 由	
良	企業	建設業	鹿嶋市には東京などからの移住者が増えている。住宅建設も盛んで、特に旧大野村が多い。	
やや良くなっている	家計	商店街代表者	ここ3ヶ月位の間、金融業関係の動きが活発になっている。	
		スーパー	暖冬により春物の動きがよい。また、客数も前年を上回っている。	
		家電販売店	平日の来店客数が増加している。しかも「見に来て」客ではなく「買いに来て」客が増加しているように感じる。	
		小売業(書店)	お勧めした商品を全て若しくはほとんど購入していく客が増加している。	
		洋食食堂	年度末で人の動きがある時期であるため、客数が増加している。	
		ゴルフ場	暖冬により、入場者数が増加している。	
	企業	製造業(化学工業)	原料であるナフサの単価が上昇しているものの、それに伴い売上単価も上がっており、販売量も増加している。また、関連企業においても、黒字企業が増加しているようである。	
		不動産業	公定歩合の利上げにより、駆込みで住宅ローンを申込み客が増加している。	
	雇用	公共職業安定所	鹿嶋・神栖地区のコンビニートや製造部門においては、依然として設備投資が活発である。また、鉄工・設備修理工に係る求人依頼が増加している。	
	変わらな	家計	商店街代表者	一般家計には景気が波及しておらず、停滞気味であると思われる。
			商店街代表者	暖冬の影響により、総体的には横這いである。特に、小規模事業者は厳しい状況に変化がない。
			スーパー	客の購入状況に変化がない。
農産物直売所			昨年と比べ、客単価に変化がない。	
衣料品販売店			総じて、買上点数や単価に変化が見られない。	
スナック			家計にとって必要なことではないためか、来客がなく仕事にならない状況が続いている。	
観光型ホテル			予約状況が例年並みである。	
ドライブイン			暖冬により客足は伸びたものの、農産物の生育に影響があった。また、例年売行きが良い焼き芋などの温かい商品の売行きが低迷した。	
観光名所			特別な行事やイベントもないため、あまり状況は変わらない。	
理容店			10分カットなど低価格店へ客が流れているのか、客数・売上とも横ばいである。また、少子化により中高年層が増加し、オシャレに鈍感な人が増えたように思われる。	
クリーニング店			暖冬の影響で農家などは収入が減少している。	
室内装飾業			依然として、必要なモノは購入するが、それ以外のモノに対しては財布のヒモは固い。	
住宅販売会社			給料に変化がないため、ローン借入に対してシビアに考えている客が多い。	
住宅販売会社			展示場の来場者数に変化がない。	
企業			農業関係者	生産過剰に対し、需要は低迷したままである。
	製造業(飼料)	穀物は値上がりしているが、今のところ出荷状況に大きな変化は見られない。		
	製造業(印刷・同関連業)	悪くなっているとも良くなっているとも思わない。		
	製造業(化学工業)	海外・国内とも製品需要は活発であり、今のところ売値を維持している。		

(3) 鹿行地域 【現状】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答	分野	業種・職種	理由
変 わ ら な い	企業	製造業（窯業・土石製品）	大手鉄鋼業の決算見通しは昨年引き続き好調であり、07年春季交渉においても鉄鋼・自動車などの一時金は過去最高値となるなど個人所得には明るい材料となっている。また、鹿嶋管内の求人倍率も順調に伸びてきている。一方、中小運送会社などでは、業務量は伸びてきているものの、単価に伸びがなく厳しい状態であるとのことであり、景気の改善傾向までには至っていないように思われる。
		製造業（鉄鋼業）	引き続きフル生産状態であり、良い状況が続いている。
		運輸業（道路貨物運送業）	貨物の入出庫状況にはそれ程変化はないように思われる。また、暖冬による野菜・果物類の価格の低下によって、他方面に影響が出ることが懸念されたが、ほぼ平年並みであった。
		運輸業（道路貨物運送業）	地元製鉄所のフル操業が続いている関係で、引き続き良い状況である。
		金融業	全般的に景気動向に変化は感じられない。
		保険業	良い話は聞かれない。
		サービス業	受注が順調である。
	雇用	人材派遣業	依然として派遣要請は多いが、要望に応え得る人材が不足している。
		民間職業紹介業	相変わらず、企業のニーズに合った求職者が少なく、マッチングが思うように図れていない。当地域では自社採用する大手企業が増加しているため、求職者は直接企業に主眼を置いているのではと思われる。
		学校就業関係者	当校の就職活動は一段落したが、特に変化は見られなかった。
求人開拓員		大手企業では、設備投資・生産量とも順調であり、関連企業も受注が好調であるが、依然として受注単価に変化がない。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	自動車販売店	例年は、3月の決算に向けて受注が増加する傾向があるが、今年はあまり伸びが見られない。
		小売業（菓子販売店）	客単価が上がらない。
		小売業（金物店）	工事量が少なく、公共事業関係の受注がやや悪くなっている。
		割烹料理店	予約は入っているものの、全体的に単価が低下している。
		日本料理店	コース料理の単価がやや低下している。また、個人客も減少している。
		タクシー運転手	飲食店からの夜間利用客が少なくなっていることも一因であるが、利用客が15%程減少している。
		タクシー運転手	とにかく仕事がない。
		タクシー運転手	買物客が減少しており、タクシーの利用が少ない。
	パチンコ店	客の滞留時間が短くなっている。また、平日・昼間の稼働が伸びていない。	
企業	製造業（食料品）	卒業や入学を控え、活気が見られるようになったものの、景気が良くなったとは思われない。	
悪	家計	コンビニエンスストア	客からは購買意欲が感じられない。

(4) 県南地域 【現状】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答	分野	業種・職種	理由
良 く	家計	商店街代表者	売上げが増加している。
	企業	建設業	ここ4ヶ月間は受注が多く、社長、営業員全員を現場に出している状態であり、13年ぶりの大黒字になる見込みである。
や や 良 く な っ て い る	家計	スーパー	特に飲食関係において、高額商品の売行きが良く、買上点数が伸びている。
		スーパー	売上げが回復してきている。無駄な物は安くても購入してもらえないが、客が必要とし納得する物は高グレードであっても購入されており、単価が上昇している。
		自動車販売店	決算期ということもあるが、新車購入がやや増加している。
		都市型ホテル	以前と比べ、値上げし易い状況になってきている。
		旅行代理店	旅行シーズンを迎えやや良くなっている。
		タクシー運転手	タクシーの動きが良くなっている。
		ゴルフ場	圏央道「つくば牛久IC～阿見東IC」の開通により活気が見られる。
		美容室	卒業式を始め、各企業のセレモニーがスタートしたため、着付けやセットの早朝利用者が増加し、料金割増しにより売上げが前年比10%伸びている。
		住宅販売会社	自営業の客の動きが良くなっている。
	企業	製造業(食料品)	既存の取引先からの受注は横這いであるが、都市部からの新規売上げが増加している。
製造業(印刷・同関連業)	年度末にかけて多忙になってきている。また、デパートや飲食店も、以前より賑わっているように感じられる。		
製造業(窯業・土石製品)	公共事業及び民間設備投資の受注が順調に推移している。また、単価の上昇も見られ総体的に良くなってきている。		
建設業	競争が激しく単価はダウンしているものの、昨年末は前年割れしていた受注が、今年に入り増加してきている。		
運輸業(倉庫業)	12月～1月にかけては、製造即出荷により在庫を持たない荷主が多く、動きが少なかったが、2月～3月にかけては、決算期で出荷が増加傾向にはあったが、在庫も持ち直している。		
不動産業	転勤など異動時期を迎え、賃貸・売買ともに動きがある。		
雇用	人材派遣業	取引先では派遣を使わず、自社雇用するようになってきており、企業が体力を付けてきたように思われる。	
	公共職業安定所	一部の産業を除き、求人は増加しており、求職者はやや減少傾向にある。また、有効求人倍率は1倍台で推移するなど雇用環境には改善が見られる。	
	雇用相談員	季節的に求職者は増加しているが、パートを含め求人数も相変わらず多い。また、一部の大手企業では、契約社員から正社員へ採用を切り替え始めている。	
変 わ ら な い	家計	スーパー	客数・客単価ともに横這い状態である。
		コンビニエンスストア	暖冬により、今年は冷たい飲み物やアイスクリームの売行きがよいものの、競争が激しく、客の消費意欲も弱いため、売上げが伸びていない。
		コンビニエンスストア	買上点数・単価ともに大きな変化はなく、消費動向についても特段の変化は見られない。
		農産物直売所	暖冬の影響により、1月までは鍋物野菜の売上げが低迷していた。2月に入りやや持ち直したものの、前年を維持するのが精一杯の状況である。一方、客数は前年比5%の伸びを見せている。
		農産物直売所	客数・客単価に変化がない。また、暖冬の影響で鍋物野菜の消費が減少している。
		和食食堂	客数に変化がない。アルコールの規制も厳しくなり、業界全体に明るさがない。
		洋食食堂	2月にあまり店舗を開けられなかったため、かなり落ち込んだが、ランチタイムに新規の客が目立ってきている。
		洋食食堂	3ヶ月前は忘年会や新年会により景気が良かったが、卒業・入学祝による客はそれ程多くはないので、良くなっているとは思われない。
		寿司店	景気の良い話はほとんど聞かれない。

(4) 県南地域 【現状】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答	分野	業種・職種	理由
変 わ ら な い	家計	都市型ホテル	前期は宴会・宿泊とも新・忘年会により売上げが良かったが、今期は歓送迎会により、なんとか前期の売上げをカバーしている状態である。
		旅行代理店	予約状況に変化がない。
		タクシー運転手	乗客数・売上げともに変化がない。
		タクシー運転手	売上げに変化がない。
		パチンコ店	何の変化もない。
		ゲームセンター	集客力のある店舗は、益々伸びていくと思われるが、旧来の店舗は悪くなっており、二極化しているように思われる。
		レジャー施設	客の動向は例年並みであり、客単価にも変化がない。
		建築設計事務所	設計の受注が少ない。
	企業	農業関係者	暖冬により、冬物野菜は早出しとなり、さらに市況が弱いこともあって、農家に明るい状況はない。また、高齢化などから将来への不安の声が聞かれる。
		製造業（食料品）	ショッピングセンターやホームセンターの集客は良好に見受けられるが、当地域としては良くなっているようには思われない。
製造業（一般機械器具）		大きな変化はない。	
金融業		不動産売買、業務請負・人材派遣業は活発に推移している。一方、土木建築・関連設備工事業は、相変わらず受注不足と採算割れに悩まされている。総体的には、特に良くなったと感じられる材料が乏しい。	
雇用	学校就業関係者	特に大きな変化はない。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	スーパー	売上げは前年をクリアしているものの、以前ほどの伸びがない。万引き件数も増加しており、景気の悪さを感じる。また、昼間他で勤務している人が夜間アルバイトの問合わせをしてくるケースが増えている。
		スーパー	客数は増加しているものの、一品当たりの単価が下落しており、客単価も低下している。
		衣料品販売店	暖冬により、冬物の売上げが不振であった。
		家電販売店	大型競合店の新規出店の影響で、客に買回りの傾向がある。
		ガソリンスタンド	法人関係の燃料油の需要が減少している。また、ここに来て建設業の倒産が増加しており、土地の動きもあまりない。
	企業	製造業（食料品）	前期と比べると、例年暇な時期である。
		製造業（窯業・土石製品）	当社においては、長期間不景気が続いている。
		建設業	下請け業者では仕事がなく、夜逃げしたとの話も聞かれる。当社においても、受注が少ない状況である。
		建設業（設備工事業）	昨年12月頃は、下水道の本管が埋設された場所での宅内接続工事がかなりあったが、現在は工事件数が減少し、リフォームの依頼も少なくなってきた。
	雇用	求人広告	広告の使用頻度は増えているものの、予算が間に合わないため、以前より慎重な姿勢が感じられることから、状況はやや悪化していると思われる。
悪 く な っ て い る	家計	タクシー運転手	外食する人が減少し、タクシーの利用も少なくなっている。
		タクシー運転手	企業も生き残りを懸けて過当競争に突入した感があり、経費節約のあおりを受けている。
		美容室	確定申告の時期であるため、財布のヒモが固い。
	企業	製造業（食料品）	前年よりはやや売上げに伸びがあるものの、年末の繁忙期と比べると、大幅に悪化している。
製造業（非鉄金属）		売上げが前年比10%弱減少している一方、材料価格は前年比20%強上昇しており、収益面が悪化している。	

(5) 県西地域 【現状】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答	分野	業種・職種	理由
良	企業	製造業（窯業・土石製品）	旧正月で休業する中国の加工メーカーが多いため、飛び入りの注文が多く、多忙のため受注を断ることもあるような状況である。一方、顧客においては、仕事がある所と無い所ではっきり色分けされている状態である。
やや良くなっている	家計	スーパー	昨年と比べ、買上率・客単価が微増している。また、安価というだけでは買上点数は伸びないが、品質が良ければ売行きが良い傾向にある。
		ガソリンスタンド	新規の工場進出はないものの、周辺にショッピングタウンが出来るため期待できる。
		和食食堂	売上げがやや伸びている。また、客の声の中にも「不景気」という言葉が少なくなったように感じられる。
		和食レストラン、割烹	客数・客単価が上昇している。
		旅行代理店	花見客の申込みが例年よりやや多いように感じられる。
		ゴルフ場	予約状況が良くなっている。
		理・美容店	売上げが前月及び前年を上回っており、来店サイクルがやや早くなっているように感じられる。
		建築設計事務所	工事（設計）の問い合わせが増加している。
	企業	農業関係者	青果物価格が上昇傾向にある。
		製造業（窯業・土石製品）	見積等の問い合わせがあり、受注もやや増加している。
		製造業（金属製品）	引合い件数が増加しているように感じられる。
		建設業	官庁が年度末となり、建設業界はやや景気が良いと思われる。
		不動産業	東京方面の業者が、古河市付近のマンション用地や分譲用地を積極的に購入している。
	雇用	公共職業安定所	求人数には落ち着きが見られるものの、求人件数は伸びている。
		学校就業関係者	職安での就職説明会への出席者が減少している。
就職相談員		求人側の条件に「要経験」や「正社員以外」が目立ち、良くなっているとまでは判断できないが、求人・求職ともに増加している。	
変わらない	家計	スーパー	客数・客単価・買上点数とも横這い傾向である。
		スーパー	客の購買行動に大きな変化は見られないが、一部では余分な消費はしない客も見受けられる。
		自動車販売店	販売台数に大きな変化がない。
		農産物直売所	マスコミなどでは景気が良いと報道されているが、客の購買意欲はそれ程変わっていないように思われる。
		専門スーパー	客単価は前年より減少し、客数は微増の状態である。依然として、低価格商品が販売の中心となっている。
		和食食堂	街興しのクーポン券を発行したが、思ったほどの効果がなかった。
		和食食堂	客や業者の話からは、良くなっているとの声が聞かれない。
		都市型ホテル	客の様子や話からも景気が良くなっているとは感じられない。
		都市型ホテル	製造業を中心に、良くなっている業種もあるようであるが、地方の小売業などは相変わらず良い方向には向かっていない。
		タクシー運転手	年未年始が過ぎてやや悪化しているが、例年どおりである。
		タクシー運転手	引き続き利用者の減少が目立つ。
		タクシー運転手	企業や工場への客はやや増加している感があるものの、商店街への買い物客の様子はまだまだだという感じがする。夜の居酒屋も良かったり悪かったりであり、全体的な景気はまだ弱いように思われる。

(5) 県西地域 【現状】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答	分野	業種・職種	理由	由
変 わ ら な い	家計	ドライブイン	客数・販売量ともに変化がない。	
		ゴルフ場	飲酒問題の影響で、レストランでのアルコール類の注文は相変わらず良くない。また、料理や売店などの単価も横這いであり、プレー代以外にはお金をかけない客が多く、景気には変化はないように思われる。	
		ゲームセンター	県外や水戸・つくばへの客の流出に大きな変化はないと思われる。	
		理容店	来店サイクルにあまり変化はない。	
		クリーニング店	クリーニング業界は季節的に閑散期である。また、小売店も依然として厳しい状況のようであり、年末年始に支出した分、消費を控えているように感じられる。	
	企業	製造業（食料品）	大手洋菓子メーカーの不祥事もあり、消費者の食品産業に向ける目が厳しい。	
		製造業（食料品）	年末商品と比べ、彼岸用商品の売上げは減少するが、今年も例年どおりである。	
		製造業（印刷・同関連業）	暖冬により、どの業種においても良い話は聞かれない。商店街は落ちる所まで落ち、回復不能の状態である。また、企業関係においても、自動車関連など一部を除き厳しい状況のようである。当社においても、売上げが減少する一方、人件費は下げられず苦戦が続いている。	
		製造業（一般機械器具）	1・2月は例年並みであったが、3月に入り仕事が多くなったように思われる。しかし、納期がなく、また単価が低い状況である。	
		製造業（電気機械器具）	客や取引先との会話において、「良い」という話も「悪い」という話も聞かれない。	
		金融業	地域外に販売先を持つ事業所の一部では、売上げに伸びが見られるものの、全体的に売上げは横這いであり、景気回復の実感はない。	
		サービス業（コンサルタント業）	倒産や設備投資の情報もなく、大きな変化は見られない。	
	や や 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	後継者がいないとのことから、目抜き通りの老舗洋品店が閉店してしまい、中心市街地の集客要因がまた一つ消えてしまった。
コンビニエンスストア			天候の影響もあるが、前年と比べ商品の販売動向に勢いがなく、客単価が低下している。	
衣料品販売店			暖冬の影響で売上げが減少している。	
タクシー運転手			例年悪くなる時期である。	
ドライブイン			天候が悪い日は入場者数が減少するが、最近では天気が良くても入場者数が伸びない。	
パチンコ店			検定切れ機種の撤去に伴う入替えが多くなり、費用が間接的に客に転嫁されることもあり、客数が減少している。	
レジャー施設			余計な出費は最小限に抑える傾向にあるため、客単価が低下している。	
住宅販売会社			来場者が減少している。	
企業		製造業（化学工業）	3月頃から復調の兆しがあるものの、半導体関連では1月、2月とかなりの在庫調整があった。	
		サービス業（広告業）	1月は忙しかったものの、2月からの売上げが良くない。	
雇用	人材派遣業	仕事量が少ない。		
悪				

## 景気の判断理由

## 2 景気の先行き判断理由

### (1) 県北地域【先行き】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答	分野	業種・職種	理由
良			
やや良くなっている	家計	家電販売店	大型商品の売上げが堅調に推移している。
		農産物直売所	現在が最悪の状況であるため、現況よりは良くなると思われる。
		レストラン	桜まつりやゴールデンウィークなどにより人の動きが出てくると思われる。
		居酒屋	近隣の大手企業の業績が好調である。また、週末の予約や県外からの出張者の利用も大きく伸びている。
		観光型ホテル	客単価が上昇してきている。
		観光型ホテル	新緑のシーズンを迎え、客足が伸びると思われる。
		レジャー施設	例年に比べ、電話による団体予約の申込みや問い合わせ件数が増加している。
		美容室	入学や異動に伴う客数増に期待している。
	企業	水産業関係者	小型船は、常磐沖の強い暖流によりシラスの出現が大いに期待される。また、まき網船や底曳網船はサバ・イワシの回復が見込まれ、好景気が期待される。
		製造業（電気機械器具）	先行きも受注の見通しがある。
		製造業（電気機械器具）	当社製品の需要は、今後も堅調に推移すると思われる。
	雇用	求人広告	新規オープンする店舗もあり、良くなってくると思われる。
		公共職業安定所	引き続き、求人数の増加及び求職者数の減少が見込まれる。また、管内主要企業の一部においては、雇用人員に過剰感が出ているが、不足しているとする企業が僅かながら上回っている。さらに、原油価格高騰の影響があるとの声も少なくなっている。
	変わらな	家計	スーパー
スーパー			高額商品と低額商品に消費が二極化しているが、先行きも変化はないと思われる。
コンビニエンスストア			地元企業のボーナスも上昇していないという話も聞かれ、改善する要因が見当たらない。
コンビニエンスストア			改善要因と悪化要因で相殺され、変化はないと思われる。また、買上点数は横這いである一方、客数の減少が続いており、新規業務拡大を予定はしているものの、大きな改善には繋がらないと思われる。
衣料品販売店			商店街の消滅により、車や歩行者が減少したままの状態である。
衣料品販売店			春先である現状に伸びがなく、先行きも変化は見られないと思われる。
自動車販売店			自動車業界を取り巻く環境には良い材料がない。
ガソリンスタンド			物販業・小売業は悪化しているようであるが、一部の製造業や土木業は多忙なようである。
小売業（酒類）			ビール・飲料水など、売行きが良くなる時期となるが、大型店やスーパーとの価格差が大きく、来客は望めない。
和食食堂			特段の売上げ増は見込めない。
タクシー運転手			都会の景気が、なかなか地方まで波及して来ない。
タクシー運転手			年度末により動きがある時期であるが、今年は動きが良くなく、先行きが見えない状況である。
ドライブイン			好天が続けば良いが、長梅雨なども懸念される。
ゲームセンター			当地域の景気にはあまり回復感がなく、ショッピングセンターにも活気が見られない状態である。
クリーニング店	あまり景気の良い話も聞かれず、客は少しでも安い店を利用しているようである。		

( 1 ) 県北地域【先行き】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	住宅販売会社	3ヶ月程度では、劇的な変化は見込めない。
	企業	製造業（食料品）	大手企業と中小企業に格差があるため、全体的に更に良くなるとは思われない。
		製造業（電気機械器具）	先行きが不透明である。
		製造業（電気機械器具）	受注量や取引先の情報からは好調さが窺えるが、ステンレス製の材料費が更に高騰することが懸念される。
		製造業（電気機械器具）	近隣の工業団地では、進出する企業がなかなか見つからないようである。
		製造業（輸送用機械器具）	引き続き、原油・ニッケルの高止まりや国内及び北米の販売不振による作業量の減少傾向が予想される。また、環境対応による費用の価格転嫁も依然として厳しい状況が続くと予想され、現状に変化はないと思われる。
		建設業	水戸市やひたちなか市にシフトしつつあるため、地元からの受注が減少しているように感じられる。
		情報通信業（情報サービス業）	良くなる要素が見当たらない。
		金融業	当地域は企業城下町であり、大手企業の業況回復次第であると思われる。
		不動産業	金利の先高感から、物件購入の前倒しを検討する客もいるが、景気の回復感は伝わってこない。
雇 用	人材派遣業	現在のところは変化するような要素がない。	
	学校就業関係者	企業の新規雇用は一段落し、変化はないと思われる。	
	求人開拓員	中小企業においては、未だ設備投資を抑制している感があり、本当に景気が上昇傾向になったとは言えないと思われる。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	増税による生活コストの増大が懸念され、消費は鈍ると思われる。
		タクシー運転手	3月下旬から4月上旬にかけては、企業の異動や定年退職による送別会などで、タクシー利用が見込まれるが、ゴールデンウィークに入ると、売上げはやや落ちると思われる。
		レジャー施設	複数の取引先から、地元の飲食関連業は全体的に落ち込んでいるとの話が聞かれる。
	企業	林業関係者	例年、木材価格が低下する時期となる。また、現在は年度末により仕事量は多いが、年度初めには減少する。
		製造業（電気機械器具）	依然として非鉄金属類の材料費が上昇傾向にあり、利益を圧迫している。
		製造業（電気機械器具）	輸出案件を主として、やや落込みが予想される。
		建設業	見積件数は増加傾向にあるが、受注競争が激しく、今後も厳しい状況が続くと思われる。
悪	家計	理容店	1,000円カット店の影響と思われるが、毎年のように常連客が減少している。



(2) 県央地域【先行き】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答	分野	業種・職種	理	由	
良					
やや良くなっている	家計	農産物直売所	現状からは、悪化する要因は見当たらない。		
		ファミリーレストラン	周辺に建物が新しく建設されており、少しずつ発展しているように感じられる。		
		観光型ホテル	日本経済が堅調であるため、今後は中小企業にも波及してくると思われる。		
		タクシー運転手	入学や異動の時期になるため期待ができる。		
		ドライブイン	現在の客数増が今後も続けば良くなっていると思われる。		
		レジャー施設	利用状況の問い合わせが等が増加しており、良い状態が持続すると思われる。		
		レジャー施設	土産品などの売上げも順調な伸びを示しており、緩やかではあるが若干の伸びはあるように思われる。		
	企業	製造業(精密機械器具)	新規の相手先商標ブランド(OEM製品)の仕事が入ったので、売上増が見込まれる。		
	雇用	公共職業安定所	4月下旬に茨城町にロックシティ水戸南ショッピングセンターがオープン予定であり、出店企業から求人が出ている。また、5月初旬にはひたちなか市、6月～7月頃には茨城工業団地にそれぞれ企業進出が予定されている。		
		学校就業関係者	企業の採用担当者のお話では、来年度は今年度より採用数を増やす見込みであるとのことである。		
変わらな	家計	商店街代表者	業種や地域によって景気に格差があり、全体的には変化はないと思われる。		
		商店街代表者	景気が良くなるような材料がない。		
		百貨店、総合スーパー	消費動向は安定していると思われる。		
		百貨店、総合スーパー	現在は、天候のお陰による好況感であるため、先行きは変わらないと思われる。		
		スーパー	今後も、堅実な消費動向が続くと思われる。		
		自動車販売店	益々厳しい状況になっていくと思われる。		
		専門スーパー	特に変わった様子がない		
		専門スーパー	やや単価が上昇しているように思われるが、異動シーズンでの一時的なものであると思われる。シーズンが過ぎれば落ち着いてしまうと思われる。		
		レストラン	予約状況に大きな動きはなく、客単価も上がっていない。		
		都市型ホテル	良くなるような要因がない。		
		都市型ホテル	宴会の予約状況を見ても、昨年をやや下回る状況であり、良くなる状況にはない。		
		観光名所	良くなる要素はゴールデンウィークが9連休であることくらいであり、予約状況も例年並みである。		
		ゴルフ場	5月に開催されるプロトーナメントの効果を期待しているが、申込みに伸びが見られず、効果が出ているようには見受けられない。		
		ゲームセンター	景気にはそれ程強く回復感がなく、現状が続くと思われる。		
		美容室	例年通りであると思われる。		
		建築設計事務所	短期間では大きな変化はないと思われる。		
		住宅販売会社	良くなる要素が見られない。		
		企業	製造業(食料品)	既存店においては横這い状態であり、当面はこのまま推移すると思われる。	

(2) 県央地域【先行き】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	企業	製造業(食料品)	業況はそれほど変化しないと予想される。
		製造業(印刷・同関連業)	良くなるような要素は見当たらない。
		運輸業(道路貨物運送業)	今後も、貨物に大きな動きは見られないと思われる。
		情報通信業(情報サービス業)	輸出関連製造業は好調を維持すると思われるが、建設業や小売業の低迷は続くと思われる。また、暖冬により、サービス業は大きな打撃を受けており、回復には時間がかかると思われる。
		金融業	当分の間は現状のまま推移すると思われる。
		不動産業	転勤による動きが収まれば、景気は元に戻ると思われる。
	雇用	求人広告	企業の設備投資が少しずつ増加しているようであるが、3か月程度では変化はないと思われる。
や や 悪 く な っ て い る	家計	スーパー	今後も競合店が出店する予定となっている。
		家電販売店	サラリーマンの定率減税廃止や健康保険料のアップなどにより、財布のヒモが固くなるのではと思われる。
		タクシー運転手	ゴールデンウィークが終わり、人の動きが少なくなる。
		タクシー運転手	3月の繁忙期から比べると、例年仕事量は少ない。自家用自動車の普及により業界は衰退しており、多少景気が良くなっても、売上げは急激には伸びないと思われる。
		ドライブイン	ロックシティ水戸南ショッピングセンターがオープンするため、影響を受けるとと思われる。
		パチンコ店	例年、4月以降は集客が厳しい状況となる。また、6月30日にスロット台が検定切れとなることもあり、業界にとっては厳しい時期となるとと思われる。
	企業	サービス業(広告業)	相変わらず、経営が厳しい企業が目立つ。中堅企業の支払遅延や受注後のキャンセルもある状況である。
雇用	人材派遣業	新卒者が入社し、落ち着きを見せるとと思われる。	
悪	家計	割烹料理店	飲酒運転の取締りが強化され、家族で外食をする機会が減少している。

(3) 鹿行地域【先行き】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答	分野	業種・職種	理由
良	家計	観光名所	1年のうちで一番の繁忙期であり稼ぎ時となるため、期待せずにはられない。
やや良くなっている	家計	商店街代表者	好調な企業業績が、末端の事業所に波及することを期待している。
		スーパー	個食用商品やタイムサービスの充実を図れば、さらに客数は増加し売上げも伸びると思われる。
		家電販売店	客からは地元企業の業績が改善しているとの話が聞かれ、今後の販売に期待が持てる。
		農産物直売所	例年と比べ、メロンなどの予約が増加している。
		小売業（金物店）	新年度のスタートに伴い、公共事業はやや上向くと思われる。企業も輸出が堅調に推移しており、やや良くなっていくと思う。
		タクシー運転手	例年どおり、やや良くなると思われる。
		理容店	新技術やメニューの細分化などにより低価格店との差別化を図っていく予定である。
		クリーニング店	暖かくなり人の動きが活発になるため消費も上向くと思われる。
	企業	建設業	鹿嶋地区には土地の在庫があるため、今後5年位はこのまま旺盛な住宅建築が続くと思われる。
		金融業	鹿島臨海工業地域に企業進出の予定があるため、不動産賃貸業を中心にやや好転するとと思われる。
雇用	公共職業安定所	鉄工・設備修理工で引き続き需要が見込まれるため、求人数は増加傾向で推移するとと思われる。	
	求人開拓員	大手企業は順調に推移していくものと思われる。また、コンビナートの定期修理が始まるので、関連企業からの求人が見込まれる。	
変わらない	家計	商店街代表者	ギフト商品（食品）においては、単価の減少が続いており、上昇する傾向が見えてこない。
		スーパー	商品の需給バランスが取れているため、商品価格に変動がない。
		小売業（菓子販売店）	地方の商店街は瀕死の状態である。
		洋食食堂	昨年の夏から秋冬にかけて売上げが落込み、1月・2月と若干持ち直したものの、先行きは不透明である。
		割烹料理店	市場に仕入れに行っても、仕入業者が少ない。また、他店の人との会話の中でも、良くなるような話は聞かれない。
		日本料理店	市場に行っても、客数が少ないため食料の回転が悪い。チェーン店が増加している事も影響しているのか、同業者から良い話は聞かれない。
		タクシー運転手	自分で運転をしない高齢者は固定客として利用が見込めるが、それ以外の利用者は少ない。利用があっても2km以内の移動が8割を占めている状況である。
		タクシー運転手	景気が良くなっていると言われていたが、実感できない。
		室内装飾業	仕事量は減少しており、単価の面においても利益が期待できない状況である。
		住宅販売会社	相変わらず、ハウスメーカーに多額の予算をかけるよりも工務店などで安く済ませる客が多い。
いい	企業	住宅販売会社	景気が上昇するような材料がない。一方、日銀の金利引き上げに伴う金融機関の住宅ローン金利の上昇が懸念される。
		農業関係者	これから先も天候不良でもない限り、生産過剰になることが予想される。
		製造業（食料品）	全般的に、良くなる要因が見当たらない。
		製造業（化学工業）	当面は、現状が続くと思われる。
		製造業（化学工業）	海外での増産の動きや原油の動向など、懸念材料はあるものの、すぐに影響がでるとは思われず、しばらくはタイトな状況が続くのではないかと。
製造業（窯業・土石製品）	当社の親会社では、設備投資が順調に進んでいるが、鉄鉱石や非鉄原料を中心としてさらに原料価格が上昇する可能性が高い。また、団塊世代の退職に伴う人員補充など、コストアップ要因が多いことから、今年度も厳しい状況が続くと思われる。		

(3) 鹿行地域【先行き】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	企業	製造業（鉄鋼業）	先行きも良い状況が維持されると思われる。
		運輸業（道路貨物運送業）	概して、大きな変化はないと思われる。しかし、現在、需要に対し供給量が過剰気味であることから、製品価格維持のため、物流コストの削減がなされる可能性がある。
		運輸業（道路貨物運送業）	地元製鉄所の操業計画に変化がなく、良い状態で推移すると思われる。
		不動産業	例年5月頃にはアパート・マンションの出入居が一段落するため、不動産取引も落ち着くと思われる。
		サービス業	全体的に変化は感じられない。
雇 用	人材派遣業	当面の景気は、現状のまま推移すると思われる。雇用面においては、完全に売り手市場となっている。	
	民間職業紹介業	企業からの求人依頼は伸びてきているため、求職者が確保できれば、かなりマッチングしやすくなると思う。しかし、現在の求職者の状況からは早々に良くなるとは考えにくい。	
や や 悪 く な っ て い る	家計	コンビニエンスストア	景気が良くなっておらず、期待できない。
		衣料品販売店	20代前半位のフリーターからアルバイトの問い合わせが多く、格差社会の拡大を感じる。
		スナック	周りの状況にも明るさは見られず、悪化すると思われる。
		ドライブイン	温暖化の影響で季節に急な変化が生じると、農産物の収穫時期がずれる等、観光面でも楽観視できない弊害が予想される。
		ゴルフ場	業界では、依然として割引合戦が続いている。また、圏央道阿見東ICの開通により、稲敷方面へ客が流れることが懸念され、当地域のゴルフ場はさらなるダンピングが必要となってくるとされる。
		パチンコ店	業界全体が厳しい状況である。
企 業	製造業（飼料）	穀物の値上げの影響が出始め、農場の経営状況が悪化すると思われる。今後は大規模畜産農場への淘汰が始まる可能性がある。	
	製造業（印刷・同関連業）	客先からあまり明るい話が聞かれない。	
悪	家計	自動車販売店	昨年より客数が減少し、受注も前年比で20%以上落ちている。このままでは先行きもあまり期待できない。

(4) 県南地域【先行き】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答	分野	業種・職種	理 由
良 く	家計	スーパー	顧客（ラーメン店，居酒屋）からは悲観的な声が聞かれない。
	企業	製造業（食料品）	中元時期となるため，良くなると思われる。
や や 良 く な っ て い る	家計	スーパー	一品単価は変わらないと思われるが，現在の傾向から客数の増加が見込まれるので期待している。
		家電販売店	シングル需要により，まとめ買いが増加すると思われる。
		自動車販売店	景気が悪いという声が少なくなったように感じられる。
		洋食食堂	口コミ客による夜のパーティーが入っており，先行きも期待したい。
		都市型ホテル	値上げし易い状況になっており，客数も増加すれば，さらに良くなると思われる。
		旅行代理店	花見やゴールデンウィークにより，行楽客が期待できる。
		住宅販売会社	自営業の客の動きが引き続き好調に推移すると思われる。
	企業	製造業（食料品）	首都圏周辺の取引先で新店舗出店の話があり，このチャンスを生かせれば売上げアップに繋げられる。
		製造業（食料品）	当業界では，春休みに入ると受注が顕著に増加する。
		製造業（食料品）	暖かくなり，行事も増える時期となるので，人の流れも出てくると思われる。
		製造業（印刷・同関連業）	大企業と中小企業には多少の格差があるように感じられるが，民間企業の景気は良くなっているように思われる。
		運輸業（倉庫業）	季節的な要因もあり，ある程度動きが活発になると思われる。
		金融業	大企業・大都市の好景気が，徐々に中小企業・地方にも波及しているように感じられる。また，団塊の世代の退職により，退職金と余暇の消費が市場の活性化を後押しすると思われる。
	変 わ ら な い	家計	商店街代表者
スーパー			ゴールデンウィーク中の天候などにもよるが，特に良くなる要因は見当たらない。
コンビニエンスストア			増税への懸念や将来不安により，お金を貯蓄に回す傾向がある。また，企業収益が改善されても，給与が増加していない。
コンビニエンスストア			客の消費動向に変化が見られず，先行きも変わらないと思われる。
衣料品販売店			天候に左右はされるが，景気拡大が一般消費者にまで波及していない。
農産物直売所			特に，青果物は天候に大きく左右されるため，異常気象が続く中での予測は難しい。
農産物直売所			好景気とは言えないが安定している。
ガソリンスタンド			景気は回復していると言われているが，それは一部の企業である。中小企業にとっては苦しい状況に変わりはなく，格差が拡大している。
和食食堂			土浦地区においては，何も期待できない。雇用も確保できず，時給アップもできないため大変厳しい状況である。
旅行代理店			景気の二極化傾向が見られる。
タクシー運転手			過当競争の流れが続き，地域格差・企業格差がより鮮明になると思われる。
タクシー運転手			景気が良くなるような話題がない。
ゴルフ場			暖冬により，現在のゴルフ場は良い状況であるが，先行きはこれ以上良くはならないと思われる。
パチンコ店			しばらくは現状が続くと思われる。

( 4 ) 県南地域【先行き】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答	分野	業種・職種	理 由
変 わ ら な い	家計	ゲームセンター	景気の良さが少しずつ反映されてくるとは思われるが、良くなるとまでは行かないと思われる。
		レジャー施設	県南地域においては、発展している地域と衰退している地域の差が益々拡大しているように感じられる。また、大型店やチェーン店の時代であり、個人店は厳しい状況である。
	企業	農業関係者	米のだぶつきや販売不振など需給を一変させるような状況はなく、悲観的にならざるを得ない。
		製造業(窯業・土石製品)	参議院選挙もあるため、それ程悪い材料はないと思われる。
		製造業(窯業・土石製品)	原油価格はかなり低下してきているものの、鉄などの原材料価格の先行きが不透明である。
		製造業(一般機械器具)	現在はかなり良くなってきてはいるが、先行きには大きな変化はないと思われる。
		建設業	4月までは忙しいものの、上場企業の新築予定の情報がかめないため、それ以降は先が読めない。また、大型の改修工事も少ない状況である。
		建設業	現在は、年度末のため受注があるが、5月以降は例年並みであると思われる。
		建設業(設備工事業)	積極的にチラシを配布したり、見積依頼のあった家庭を訪問しているが、あまり良い返事が返ってこない。
		不動産業	首都圏と比較し、県南地域では空洞化が進展すると思われる。
	雇用	求人広告	広告使用に慎重な姿勢が続いており、先行きも変化はないと思われる。
		公共職業安定所	業況調査においては、横這いの見通しとなっており、現状で推移すると思われる。
		学校就業関係者	求人に関しては、今年度と変わりはないと思われる。
		雇用相談員	雇用環境は改善しているものの、賃金の上昇には繋がっていない。また、正社員とパート・契約社員との賃金格差は継続し、不安定な生活が続くと思われる。
やや悪く	家計	寿司店	昇給の時期であるが、アップはあまり望めないようである。一方、増税や医療費負担の増加などにより大変であるとの声が聞かれる。
		都市型ホテル	予約状況からは、宴会・宿泊ともややマイナスとなる見込みである。特に、宿泊が悪化すると思われる。
	企業	建設業	年度末が過ぎ、受注が減少すると思われる。また、受注があっても、値引きされることが多く、同業者も下請け業者も利益が上がらない状況である。
悪	企業	製造業(非鉄金属)	メーカーの減産基調が続いており、受注は減少する見込みである。また、材料価格も高値安定しており、景気は悪化することが予想される。

(5) 県西地域【先行き】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答	分野	業種・職種	理 由
良			
やや良くなる	家計	スーパー	円安傾向により輸出関連の製造業を中心として所得アップが予想され、消費は右肩上がりになっていくと思われる。
		専門スーパー	気温の上昇に伴い、ガーデニング関連商品や行楽用品の動向が早まると思われる。
		ガソリンスタンド	周辺にショッピングタウンが出来るため期待できる。
		和食食堂	暖かくなってくるので、人の動きが多くなることを期待している。
		和食食堂	客足が伸びている。
		都市型ホテル	あまり期待はできないが、設備投資が増加するとの話を耳にするので、人の動きが出てくると思われる。
		旅行代理店	例年、5・6月は客数が多いが、現在の申込み状況から見ると、例年を上回ることが予想される。
		タクシー運転手	新社会人の研修や歓送迎会などがあり、人の動きが良くなる。
		タクシー運転手	景気が上向いているような感じはするものの、実態は良かったり悪かったりであり、安定していない。しかし、これからは暖かくなり買い物客も外出しやすい季節となるので、商店街に活気が出てくることを期待している。
		ゴルフ場	先行きも予約状況が良い。
		パチンコ店	スロット機の検定切れが相次ぎ、現在設置している機種は夏頃までには入替えられる。
		クリーニング店	暖冬により、冬物衣料が早めに出されると思われる。
		良くなる	企業
製造業（印刷・同関連業）	統一地方選があるが、当地域では定員は大きく削減される一方、立候補者は乱立する予定であるため、選挙需要が見込まれる。		
製造業（化学工業）	1月、2月に在庫調整をしていた半導体関連が、やや復調することが見込まれる。		
製造業（窯業・土石製品）	受注がやや増加している。		
建設業	一般の景気は地域格差があり良くなっているとは思われない。一方、当地域においては、古河市の合併によりインフラ整備が推進されており、建設業界の景気は良い方であると思われる。		
不動産業	売買客及び高額物件の引合いが増加傾向にある。		
雇用	学校就業関係者		
変わらない	家計	商店街代表者	財布のヒモは固いように思われる。
		スーパー	客数・客単価・買上点数は横這い傾向であり、先行きも変わらないと思われる。
		家電販売店	全体的に変化がないように思われる。
		自動車販売店	販売台数の伸びは期待できない。
		農産物直売所	企業の業績は順調に推移しているようであるが、春闘を見てもそれ程の賃上げは見られず、景気に変化はないと思われる。
		都市型ホテル	現状からは、それ程変化はないと思われる。
		ドライブイン	ニュースなどでは、景気が良くなりつつあると聞かれるが、客からは景気の良さは感じられない。
		ゴルフ場	このままの天候が続けばゴルフ場は潤うと思われる。しかし、世間ではいざなぎ景気の再来と言われていたが、ゴルフ場の様な娯楽施設の景気回復はまだまだ先のような気がする。
ゲームセンター	現状から大きな変化はないと思われる。		

(5) 県西地域【先行き】

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答	分野	業種・職種	理由	
変 わ ら な い	家計	レジャー施設	景気回復が、労働者に波及しておらず、民間・官公庁とも賃金で明るいニュースがない。	
		理容店	今のところ、良くなるような要因はない。	
		理・美容店	今月は売上げがアップしているが、景気の良い客と悪い客とで差があるように感じられる。	
		建築設計事務所	多忙ではあるものの、利益が伴っていない。	
		住宅販売会社	来場者の話からは、景気の良さが伝わってこない。	
	企業	農業関係者	秋冬野菜の安値の影響が今後の経営に影響を及ぼすことも考えられる。	
		製造業（食料品）	新商品に爆発的なヒットを引き起こせるようなラインナップがない。	
		製造業（食料品）	当分、現状が続くと思われる。	
		製造業（金属製品）	先行きは不透明である。	
		製造業（一般機械器具）	取引先の話からも先行きは分からないとのことである。	
		製造業（電気機械器具）	客や取引先との会話において、「良い」という話も「悪い」という話も聞かれず、先行きも変わらないと思われる。	
		金融業	業容及び生産・売上げの拡大が見込まれる要素に乏しく、しばらくは景気の停滞が続くと思われる。	
		サービス業（広告業）	例年、ゴールデンウィーク明けから暇になるが、今年も変わらないと思われる。	
		サービス業（コンサルタント業）	特に変化は感じられない。	
	雇用	公共職業安定所	求人・求職とも大きな変化は見られない。	
		就職相談員	現状が続くと思われる。	
	や や 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者	隣接市に、また大型ショッピングセンターがオープン予定となっており、消費者の流出に歯止めが掛からないと思われる。
			スーパー	増税策がマイナスに働くと思われる。
			衣料品販売店	冷夏が予想され、また商品力も低下している。
和食食堂			例年どおり、あまり景気は良くないと思われる。	
ドライブイン			近隣に直売所ができ、競争相手が増えるため、売上げが見込めない。	
企業		製造業（窯業・土石製品）	当業界は、5月・6月が谷になるため、仕事は減少すると思われる。	
雇用	人材派遣業	例年、仕事量が少なくなる。		
悪	家計	タクシー運転手	年々タクシー利用者は減少しており、売上げは減少すると思われる。	



景気の判断理由

3 その他の意見

(1) 県北地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	商店街の近隣にまた大型食品店が出店した。大型店同士の販売競争になりつつあり、商店街は益々来街者が減少すると思われる。
	スーパー	催事や子どもの行事への支出がやや上向いている。
	スーパー	ビール類では、低価格商品の売上構成比が増加している。
	コンビニエンスストア	景気が悪い中でも、自動車・バイク・パソコンなど欲しい物は購入されており、無駄遣いはしないものの、消費力はあることが窺える。
	コンビニエンスストア	長年の定番商品が売れなくなり、商品の販売構成が大きく変化し始めている。
	衣料品販売店	食料品など毎日消費する物以外は、買い物客は都市部に流出していると思われる。特に、土日・祭日はこの現象が顕著になっている。
	家電販売店	高額品の売上げが堅調である。
	自動車販売店	景気が良いのは企業だけであり、一般庶民の景気は上がらないとの声をよく耳にする。
	農産物直売所	暖冬で袋田の滝が凍結しなかったため、観光客が激減しており、昨年より4割程であった。
	小売業（酒類）	インターネットによるワイン販売に力を入れている。
	レストラン	ここ数年マンション建設が盛んであり、景気が良くなってきたように思われる。
	居酒屋	さくらシティ日立の状況が良くない。
	和食食堂	そば粉は年々ブランド化が進み、特に、金砂郷のそば粉は高価で手が出ない程である。
	観光型ホテル	以前から感じられることであるが、満足すれば客は支出してくれる。
	観光型ホテル	祝事の宴会が増加しており、多少余裕が出てきたのではと思われる。
	タクシー運転手	身の回りには明るい材料が何もない。
	タクシー運転手	3月15日から29日にかけて、地元大手企業が営業自粛をしているようである。
	ドライブイン	滝が凍結しなかったり、梅の開花が早かったりと、観光地には大きく影響したようだ。
	ゴルフ場	新聞の求人広告を見ても、賃金が上昇しているように思われ、当クラブの賃金設定では応募が来ない状況である。
	レジャー施設	1日に複数の施設を回るよりも、1つの施設で簡単に遊ぶ客が増加している。
レジャー施設	周辺に大型店舗ができたため、人材が不足している。新聞に求人広告を掲載しても問合わせは数名であり、今後の人員確保に不安がある。	
美容室	美容業界においても低価格カット店が急増しており、影響が出てきたように感じられる。	
クリーニング店	今年は暖冬のため、燃料店は大きな影響を受けたようである。	
企 業 関 連	林業関係者	今年は雨、雪が少なく野外での仕事量が増加したため、丸太生産量が増加している。また、外材輸入量の減少と価格の高騰により、林業界においては景気が良かった。
	水産業関係者	金融機関の不良債権処理により、地元冷凍加工業者では大手企業2件・小企業1件の競売が実施されている。金融機関の水産離れが、水産業界の景気後退の大きな要因となっている。
	製造業（食料品）	周辺で、閉店する老舗個人商店や企業が目立つ。
	製造業（電気機械器具）	銅製品やステンレス製品の盗難事件の多さは、現状の景気を反映している現象であると思われる。
	製造業（電気機械器具）	県南地区の景気は良いという話を耳にするが、身の回りでは景気が良いという話は聞かれない。
製造業（電気機械器具）	4月に当社のグループ会社との合併が決まっており、開発力の強化・製造体制の最適化が図られる。これにより、さらなる事業の拡大及び連結経営の効率化を推進していく。	

(1) 県北地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
企業関連	製造業（電気機械器具）	地元では、夜逃げした不動産業者があるという話を耳にする。
	製造業（電気機械器具）	取引先の生産体制が、外注から内部製作化するなど、取引形態に変化が見られる。
	金融業	日立市内では、マンションの売行きが好調なようである。
雇用関連	求人広告	人は動くが、派遣・アルバイトともに長続きする人が少なく、良くないサイクルが出来ている。
	求人開拓員	雇用不足感があるが、退職者・リストラ等による技術者や専門家の補充をしているだけであり、景気回復とは言えないと思われる。

(2) 県央地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	どの業種においても競争が激化しており、業界再編や異業種の参入など、生き残りをかけた争いは熾烈になっている。また、労働環境なども大きく変わってきていると感じる。
	商店街代表者	3月・4月は、卒業・入学・就職シーズンのため、商店街への来客数が増え、祝い品や学校用品など売上げが増加する店舗もある。
	百貨店、総合スーパー	家計（個人消費）においては、景気回復の実感が少ないように感じられる。一方、個人のライフスタイルにマッチした商品であれば、価格に関係なく動きがよい。
	百貨店、総合スーパー	卒業・入学用スーツといったセレモニー関連商品の売行きが順調である。
	家電販売店	大型ショッピングセンターの出店が相次ぎ、商店街の空洞化に拍車がかかっている。
	自動車販売店	まだまだ先行きが不安との声が聞かれる。
	農産物直売所	売上げの精算をすると、最近では1万円札が増加しており、客の財布の中身にも1万円札が増えていることが窺える。
	専門スーパー	土日だけ田舎暮らしをする客の利用が増加してきており、今後の消費行動に期待ができる。
	割烹料理店	地方はまだまだ厳しい状況である。
	観光型ホテル	高級車に乗っている客が増加しているように感じられる。
	旅行代理店	団体客に関しては大きな変化は見られないが、個人客には上向きの傾向が見受けられる。
	タクシー運転手	街の中心部にはマンションが目立ち、販売店は撤退しているようであるとの話をよく耳にする。
	タクシー運転手	日立地区では企業の業績があまり良くないため、水戸地区と比べると売上げが悪い。また、最近では2次会・3次会と夜遅くまで飲み歩く客が減少している。
	ドライブイン	量を購入する客は少ないものの、本マグロなど価値のある商品は少しずつ売れるようになってきている。
	観光名所	高額商品の動きが鈍いにもかかわらず、売上げは例年並みであることから、細かい物の売上げが伸びていると思われる。
	ゴルフ場	2004年に当倶楽部で開催したプロトーナメントでは、相当数の入場券販売があったが、今年開催されるプロトーナメントでは、入場券販売の売上げが上がっていない。レジャー産業の景気回復にはまだ時間がかかるように思われる。
	レジャー施設	クリスマスイベントの入場者は増加しており、イベントに敏感な消費者感覚が窺える。また、初めて年末・年始も営業したが、予想より入場者が多く、消費者の動向が変化してきていることを実感した。
	理容店	町内の商店が4店舗閉店することになった。また、年金生活者の1,000円カット店の利用が増加し、客数が減少している。
企 業 関 連	製造業(食料品)	同業者・異業者問わず、歴史のある企業の倒産が見受けられ、地方や中小企業にとっては依然として厳しい状況が続いている。
	製造業(金属製品)	以前と比べ、求人をしてもらっても応募が少なくなった。
	製造業(一般機械器具)	タクシーや寿司屋からはダメだという声が聞かれ、周辺は全く良くない。
	製造業(精密機械器具)	新規にOEM製品の受注契約となったが、他にも1・2件の話がある。大手企業はより安定して生産を委託できる企業を探しているようである。
	運輸業(道路貨物運送業)	軽油価格は下落しているものの、前年と比べればまだ高い水準にある。一方、価格転嫁はなかなか出来ない状況である。
	情報通信業(情報サービス業)	県内景気の好調さは、県南地区に集中しており、県内の格差が拡大しているように思われる。
	金融業	金利上昇傾向のためか、借入金の繰上げ返済等が見受けられる。
雇 用 関 連	サービス業(コンサルタント業)	水戸市においては分譲マンションの供給が過剰であり、値崩れがおきる限界である。今後のマーケットに影響を及ぼすことが懸念される。
	人材派遣業	就職氷河期世代(20代後半)の社員が不足しているため、中途採用など人材会社を利用して充足する動きが活発になっている。
	求人広告	ショッピングセンターや店舗の新規出店が目立つ。
	公共職業安定所	2月末現在の新卒高校生の求人は前年比+16.1%であり、求人倍率は1.41倍(昨年1.24倍)となっている。また、新年度切替えのため、官公庁の臨時職員の求人が増加している。

(2) 県央地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
雇用 関連	学校就業関係者	IT産業，特に多くのソフトメーカーでは今年度の予定採用人員に達せず，年間を通して採用を続ける とのことである。一方，業績悪化により，2月になって内定取消や採用延期を伝えてくる企業もある。戦後 最長の好景気との声があるが，企業によって業績が様々である。
	求人開拓員	職種にもよるが，パートの求人が減少し，正社員の求人が増加してきている。

(3) 鹿行地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	農産物価格の低迷により、生産農家には元気が見られず、中小零細企業においても同様に元気がない。
	商店街代表者	確定申告の時期だが、今回が最後の確定申告だという話を数件聞いた。後継者不足等により、年々事業者数は確実に減少している。
	商店街代表者	金融関係が活発であり、各企業も先行きが見えてきたように思われる。
	スーパー	各企業が雇用調整をしているためか、求人募集のチラシに対する問い合わせ件数が増加しており、当店においては採用がやや楽になった。しかし翻って考えると、全体的な求職状況は厳しくなっているのかもしれない。
	コンビニエンスストア	高齢者は、お金を持っている人とそうでない人で二極化している。
	家電販売店	住宅の新築により、まとめ買いをする客が増加している。また、高付加価値商品の売行きがよい。
	自動車販売店	高級車の売行きが悪く、軽自動車の受注が増加している。
	小売業（菓子販売店）	暖冬の影響からか、農家の景気が良くない。
	小売業（金物店）	金属類（ステンレス・銅）の価格高騰により、仕入れ価格も上昇している。
	スナック	周辺では建売住宅の建築が盛んになっている。
	洋食食堂	飲酒運転に対する意識が大きく変化しており、代行を利用したり飲酒しない人を決めたりと、飲酒運転する客はほとんど見られなくなった。また、地域柄、中国人研修生の歓送迎会を兼ねた宴会が多く見られる。
	割烹料理店	企業の客の話では、設備投資が盛んになっているとのことである。
	日本料理店	都心では景気の良い話を聞かすが、地方には波及していないようである。周りからは景気が悪いため犯罪が増加しているとの話も聞かれる。
	ドライブイン	記録的な暖冬により、農産物の生育に影響があったが、借楽園に向かう客の時期は例年より早まっている。
	クリーニング店	年度末のため製造業は多忙なようである。
住宅販売会社	一時期のコスト重視一辺倒ではなく、現在は良い物であれば多少高価であっても購入する傾向が見受けられる。	
企 業 関 連	農業関係者	小規模農家では景気回復は感じられない。相変わらず「働けど働けど…」といった空気が濃厚である。
	製造業（飼料）	穀物の値上がりが続くか、値上げが末端まで波及するかによっては業界の経済動向が大きく変化すると思われる。
	製造業（印刷・同関連業）	業種により、景況感に差があるように感じられる。
	製造業（化学工業）	主力社員の大量退職を目前に控え、人材の確保と育成への不安に関する話題が多い。
	製造業（鉄鋼業）	飲食店やガソリンスタンドの新規出店や店舗更新が見受けられ、設備投資は依然として旺盛であることが窺える。
	建設業	海岸の浸食が激しい。このままでは、住宅の方にまで被害が出るのではと心配している。
	運輸業（道路貨物運送業）	安全・エコ・クリーンなどの言葉を良く耳にする。今後は、食品にしても機械類にしても、環境に良い商品が伸びていくと思われる。
	運輸業（道路貨物運送業）	軽油価格に値下がりが見られ、単価上昇不安が解消されたように感じられる。
	保険業	土採取業者をよく見かける。
	不動産業	神栖市は企業の進出が目立ち、人口増加により、アパート・マンションの入居者が増えてきている。また、外国人労働者も増加している。
サービス業	同業種でも、活気がある企業とそうでない企業が見受けられる。	
雇用	民間職業紹介業	求職者の欲求には偏りがあり、交替勤務やシフト勤務を敬遠する傾向がある。特に、製造業のマッチングは厳しい状況である。

### (3) 鹿行地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
雇用 関連	公共職業安定所	新たな起業や参入が見受けられるが、企業間には格差があり、組織力・資金力の関係で淘汰されてしまうのではないかとされる。
	学校就業関係者	就職状況はかなり良いので、景気も良いと思われる。
	求人開拓員	鹿嶋・神栖地区においてはアパート需要が旺盛のようだ

(4) 県南地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	スーパー	競合店のチラシ本数が増加しており、どの店舗でも売上げ確保に苦戦しているようである。
	スーパー	今までは中途採用のみであったが、今年度は6年ぶりに新入社員が入社する。
	コンビニエンスストア	週末の売上げが悪い傾向が続いている。ショッピングセンターを利用するなど、余暇の使い方が変わってきているのではと思われる。
	衣料品販売店	消費者のニーズが物からサービスへシフトしている。
	家電販売店	修理に出す客が多く、買い控え傾向が目立っている。
	自動車販売店	中古車あまり売れなくなった。
	ガソリンスタンド	今年の就職活動は、学生にとってはかなり好条件のようである。企業は早く良い人材が欲しいため、内定を急いでいるとのことである。
	洋食食堂	飲酒運転が厳しくなり、近隣の居酒屋が2軒閉店した。また、飲食店からも夜間はとても暇だとの声が聞かれる。一方、不動産業の客からは景気が良いとの声が聞かれる。
	都市型ホテル	以前と比べ、高額商品の販売時に値引要求が減ったように思われる。
	旅行代理店	規制緩和による価格競争によって、企業経営が悪化している。また、金利の上昇により、設備投資が困難になり、客へのサービスが低下することが懸念される。
	タクシー運転手	夜間の利用客が減少している。
	タクシー運転手	やや人の動きが出てきたように感じられる。
	タクシー運転手	企業・個人ともマナーやルールが要求されており、これを満たしていくことが業績に反映されると思われる。
	美容室	かすみがうら市では、国保税増税の条例改正案が提出されているとのことであり、高齢者からは悲鳴が上がっている。
	美容室	周辺では、1,000円カット店など理容店の増加が目立つ。また、土浦ひな祭りや土浦カレーが好評であるなど、商店街に賑わいが見られる。
建築設計事務所	耐震診断の仕事が目立っている。	
企 業 関 連	農業関係者	飲食店は相変わらずの状況である。また、ゴルフ場も土日は満員であるが、平日は閑古鳥が鳴いている状況である。
	製造業(食料品)	つくばエクスプレスの開業により、開発ブームとなっているが、個人消費は今一のように思われる。
	製造業(食料品)	アパート・マンション・貸店舗の新築が見受けられ、一部では経済活動が活発になっているように思われる。
	製造業(飲料)	マスコミでは景気回復と報道されているが、格差が拡大しているためか、実感はできない。
	製造業(印刷・同関連業)	企業間の価格競争が益々激しさを増しているように思われる。
	製造業(窯業・土石製品)	ガソリン価格に上昇感がある。
	製造業(窯業・土石製品)	年度末を控え、出荷量が多く、一部には間に合わない製品も出ている。
	製造業(非鉄金属)	燃料のガス・電気の高値安定が続いているが、競争が激しいことから、価格転嫁も限られており、収益の確保が難しくなってきた。
	建設業	新年度の予算取り見積り依頼が少ない。また、財界の会合でも半数以上が「様子見」の状態とのことである。
	建設業	神立周辺でも新店舗が出店しているが、経営者の入替わりが多いように思われる。また、当社のテナントも1年半位空室になっている。
	建設業	つくば市においては、つくばエクスプレスの開業により新店舗が次々に出来ており、古い店舗は閉店している状況にあるが、新聞広告の多さから見て、新店舗間の競争も非常に激しいように感じられる。
	建設業(設備工事業)	一般家庭やハウスメーカーからの設備関連業務においては、かなり値引合戦が行われており、経営が苦しくなっている。
運輸業(倉庫業)	運送関係においては、運賃の値上げが出来きない状況にある。	

#### (4) 県南地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
企業 関連	金融業	一部の金融機関では、団塊世代の退職により、連日のように住宅ローンの繰上げ返済が発生し、黙っていても預金が集まってくる状況にあると聞かれる。
	不動産業	単身用の需要は増加しているが、法人・個人事業・ファミリー需要は厳しい状況にある。
雇用 関連	求人広告	全体的な消費動向は、贅沢品の購入よりも、値引きをする方が目立つように思われる。
	雇用相談員	当所利用者の大多数は正社員希望であるが、派遣会社からは深刻な求人依頼が続いている。



(5) 県西地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	当店では食品小売業を営んでおり、その日の商品を完売するため夕方5時以降は3割～5割安くしているものの、どんなに安くしても必要な物しか購入しない客が増加している。
	スーパー	健康商品やグルメ商品の動きが良くなっている。
	コンビニエンスストア	客の選択の幅は広がっており、飲食においても購入店を使い分けする傾向は強くなると思われる。
	衣料品販売店	商品在庫の状況や取り扱っている商品かどうかといった問合わせが増加している。来店してショッピングするというより目的買いをする客が増加しているようである。
	農産物直売所	身の回りからも景気の回復は感じられない。
	和食食堂	景気が上昇していると報道されているが、サラリーマンの給料は上昇しておらず、財布のヒモは固い。
	和食食堂	集客のある店舗とそうでない店舗がはっきりしてきた。
	和食レストラン、割烹	宴会などでアルコールの注文がなくなった。今後は、アルコールなしでも経営できるメニュー作りが必要になってくると感じられる。
	旅行代理店	スーパーの鮮魚コーナーにおいて、やや高くても良い物が売れているように感じられた。
	タクシー運転手	タクシーの規制緩和により賃金格差が問題となっているが、当分改善は見込めない。
	タクシー運転手	製造業では景気が上昇気味であるとの声を聞く。
	タクシー運転手	同じ曜日でも良かったり悪かったりで安定しておらず、景気の見通しの判断が難しくなっている。
	レジャー施設	アルコール類の動きが悪くなっている。
	理・美容店	近隣の居酒屋は、暇でどうしようもないとボヤいている。また、客からは、遠くても1円でも安いガソリンスタンドで給油するとの声も聞かれる。一方、企業の話からは、残業がやや多くなっているようである。
	クリーニング店	大企業の社員、共働きの公務員などはゆとりのある生活をしているように思われる。一方、定年退職した人は途端に地味になっている。
企 業 関 連	農業関係者	自家用車の買替えが見受けられる。
	製造業（食料品）	景気回復により就職待機者が減少しているためか、求人をしてもなかなか応募がない。
	製造業（印刷・同関連業）	中小零細企業はもちろんであるが、近距離に大手スーパーが次々と出店しており、大手企業の競争も激しくなっている。
	製造業（化学工業）	パチンコ業界は好調なようである。
	製造業（窯業・土石製品）	同業者との話からは、受注が増加している業者の方が多いようである。
	製造業（窯業・土石製品）	同業者やコンビニ・パチンコ店・ガソリンスタンドなどの休廃業が目立つ。
	製造業（金属製品）	納期が短期化している。
	建設業	原油価格の値上がりの影響からか、関連製品の仕入価格が大幅に上昇している。また、大型店などの出店により、シャッター通りとなる商店街が増加している。特に、飲食店・衣料品店・家電販売店が影響を受けている。
	金融業	暖冬の影響により、衣料品販売店においては、破格な冬物バーゲンの開催にもかかわらず、売上は昨年実績を下回っている。
	不動産業	金利の上昇傾向により、不動産取引が活発になっているように感じられる。
雇 用	サービス業（広告業）	単純な仕事が減少し、企画・立案するようなものが増加してきているため、人材の質を上げていくことが求められている。
	サービス業（コンパウト業）	若干、設備投資を行う傾向が見受けられるが、一部の企業に限ったことであり、格差が出てきたと感じられる。
雇用	人材派遣業	仕事量が少ないが、派遣する人材も不足している。

(5) 県西地域 【その他】

分野	業種・職種	その他の意見
雇用	学校就業関係者	新しく工作機械を購入した機械部品加工業者を2社ほど見かけた。